

研究開発活動

ビクター・JVCは、お客様に最高の感動をお届けするために、基礎研究から商品化を視野に入れた応用技術にわたり、幅広く研究開発に取り組んでいます。ビクター・JVCのDNAの中心は、やはり常に業界をリードする技術です。今後も技術立社をめざして、今日を支える技術、3年から5年先の明日を築く技術、そして会社を永続的に発展させるための5年から10年先の将来を描く技術を、時間軸で分けてマネジメントしていく体制を構築していきます。

研究開発体制

ビクター・JVCの研究開発体制は、全社研究機関の位置づけとなる技術開発本部および各カンパニーが擁するカンパニーラボ（開発部）と、商品化を担う技術部より構成されています。技術開発本部では、長期的視野に立ったコア技術、全社共通要素技術、システム化技術および次世代デバイス技術などの研究開発とともに、次期商品に必要なLSI設計開発技術の蓄積を行っています。各カンパニーラボでは高精細ディスプレイ、デジタルHDストレージ、ネットワークAVシステム、部品、ソフト・メディアの5重点事業を中心とした次世代商品の開発を進めています。また事業部の技術部門では商品化設計を担当しており、互いに緊密な連携を図っています。海外では、国際的な研究開発体制の強化を図っており、北米R&DセンターおよびシンガポールR&Dセンターにおいて、各市場の特性を反映したデジタルテレビのソフト開発や、ネットワーク関連の技術開発を行っています。

技術のテーマと方向性

ビクター・JVCの技術開発テーマは、高品位な音と映像の提供に集約されます。この高品位を具現化するために、記録から保存・加工・伝送・表示までのすべてのステージで当社独自の技術を投入し、人々に感動を与える高画質・高音質を追求しています。今後は、放送、通信、記録再生の分野でデジタル化、HD（ハイ・ディフィニション）化が進むことで、当社の高品位技術がより活かせる環境が整います。これを踏まえて、ディスプレイ、光ディスクにテーマを集中し「HDといえばビクター・JVC」といわれるように、ストレージ技術、高画質・高音質技術を徹底的に強化していきます。現段階では、D-ILAプロジェクター、DVDレコーダーのキーデバイス内製の体制を整えるなど、戦略商品の垂直統合を進めることにより、高付加価値化と資産の効率化を両立させていく考えです。

また、高付加価値商品を生み出すために、研究開発費は強化技術に集中投入していく方針です。その一方で、当社の5年先、10年先を見据えた研究開発テーマの選択と集中を進めることによって、研究開発費の効率的使用を考えていきます。

現在、2005年3月の完成をめざして、横浜工場に隣接する入江地区に新しい技術棟を建設しています。当社はこの技術棟で、コア技術の強化・伝承の仕組みづくりと強化技術への技術者のシフトと増員を進める計画であり、研究分野の異なる技術者をこの技術棟に集結させ、新たな高付加価値商品を生み出す拠点と位置づけています。



新技術棟（2005年3月完成予定）